

議事録 概要
第9回 市民と市長の対話ひろば ～もりりんと語ろう、宝塚市の未来～ テーマ：行財政改革について （令和7年中に方向性を出すことを検討している事業について）
日時：令和7年11月9日（日） 午後2時～午後4時20分 場所：ピピアめふ1 コープめふ 2階ホール 参加者：48名 市出席者：森市長 総務部経営改革担当－政処部長、田外次長 総務部業務改革推進課－吉川係長、岡田係長 市民交流部－藤田部長
《市長のテーマ説明内容》 市民と市長の対話ひろば11月資料「検討を進めている事業の整理とこれからの政策を含む行財政改革について」をご参照ください。 《対話》 1 参加者【身体障害4級、障害と高齢者について】 ・4級については理解が不十分なので教えてほしい。4級には1種2種があり、理解が難しい。どのような条件の人が該当するのかを知りたい。 ・障害や高齢者の医療との調整が難しい。精神的な障害や身体的な障害と高齢の医療は別物であるべきだが、実際には両者が複雑に絡み合っていると感じている。 ➡ 市長 ・4級の説明は難しく、障害の軽重に関する分類（1級～4級）や内臓の障害などが絡むため、簡潔に説明するのが難しい。4級の方々の多くは高齢者であり、介護保険と障害福祉の間での線引きが難しい。4級が介護保険に該当すべき方々も障害者手帳を持っている場合もある。 ・障害と高齢者福祉の線引きが難しく、国の福祉政策における重要な課題である。介護保険と障害福祉の枠組みをどう調整するのが課題であり、国全体で解決を目指している。 ➡ 担当職員 ・4級に該当する障害には、例えば、両上肢のおや指を欠くものや音声機能、言語機能または咀嚼（そしゃく）機能の著しい障害が含まれる。高齢者が多く4級を取られている。 2 参加者【削減の効果額、補助金の確保について】 ・事業削減に関して、どれくらいの金額を減らせるかの具体的な数字を知りたい。

- ・市長が国に対して強いパイプがあるなら、もっと補助金を獲得することができるようにお願いしたい。

➡ 市長

- ・事業削減については、税収が増えるか減るかが不確定であり、現事業の基礎経費も増える可能性があるため、削減額を確定するのは難しい。現時点で、今後 10 年間の累計赤字額の相当程度が解消すると見込んでおり、実質的にシミュレーションの誤差の範囲のような金額になる可能性が高い。
- ・引き続き国に対し、補助金の要望をあげていく。ただ、国の財政状況は厳しく、補助金獲得は非常に競争が激しい状況であるが、努力したい。

3 参加者【バス、タクシーの運賃助成について】

- ・バス、タクシーの運賃助成の廃止または制限について、神戸新聞の記事と市長の発言に食い違いがあるように感じる。高齢者や障害者が市立病院へアクセスするための補助は重要。特に、タクシー代が経済的に負担である。
- ・市長を応援しており、「ひとりひとりにやさしいまち宝塚」を実現してほしいと期待。

➡ 市長

- ・運賃助成については、生活困窮者の支援を別の枠組みで行うべきと考える。
- ・市立病院へのアクセスについては、バスの便が一定数あるものの、バス停まで行けない人がいることは把握している。厳しい状況であるが、阪急バスなどと話し合い、改善策を模索している。
- ・現状では具体的な改善策を示せないが、将来的には市内の公共交通のあり方を改善する方向で調整している。
- ・財政の厳しさ、将来の負担を避けるためには一部の施策を判断せざるを得ない状況。「ひとりひとりにやさしいまち」を作っていきたいと当然今も思っている。

4 参加者【新たな福祉拠点、よろず案内、市立病院建て替えについて】

- ・フレミラに新たな福祉の拠点を作る計画は、現在の施設を改修するのか、それとも新たに別の拠点を作るのか。様々な世代や障害を持つ人々が交流できる場所の設置を望む。
- ・よろず案内の適用範囲は、市役所以外にも教育委員会などにも適用されるのか。具体的には、教育委員会から送られる不明瞭な案内について改善を希望したい。
- ・市民病院の建て替えについては、現在の市民病院の立地が不便であるため、よりアクセスの良い場所に移転することを希望する。

➡ 市長

- ・フレミラの福祉拠点については、今あるものも含めた拠点としていく。すべての人が対象となるよう整備する方向で考えている。
- ・よろず案内は、サービスステーションや人権文化センターで実施する予定で、教育委員

会の案件もそこで受け付けることができるようにしたいと考えている。

- ・市民病院は現在の敷地内で建て替える予定。その理由として、費用の問題と既存の施設を活用できる部分があり、再検討したが移転は難しい。ただし、交通アクセスの改善には取り組む。

5 参加者【エフエム宝塚、コスモキャストについて】

- ・エフエム宝塚が発災時に有効に活用されるよう、災害時の緊急通信手段としての役割を強化するべきではないか。
- ・コスモキャストというシステムが存在するが、市民の多くがその存在を知らないため、無駄に費用がかかっているのではないか。

➡ 市長:

- ・FM 放送が発災時の重要な情報発信手段であるという認識はあるが、近年はインターネット経由での情報発信の方が重要視されている。消防庁に災害時に FM がいないことの影響を確認したところ、現在は、緊急時のネット回線(副回線)を持っておくことのほうが大事であり、FM の優先順位は低くなっているとのことであった。日頃から防災に役立つ情報を提供することが重要だが、FM 放送については日常的に聴取されているかなども重要。FM 放送については、引き続き検討する。
- ・コスモキャストについては、予算関与などについて調べておく。

＜参考＞コスモキャスト：スマートフォンにインストールすると、すみれ防災スピーカーの放送（災害・緊急時の放送のみ）を聴くことができる。

6 参加者【バスの運行について】

- ・6～7 年前から清荒神地域におけるバスの運行をお願いしているが、なぜ自分たちの地域には来ないのか。昨年、オンデマンドバスのお試し運行があったが、その後何の報告もないので、その後の進捗について知りたい。高齢になり、歩くのが大変になってきたため、近くにバス停を作してほしい。

➡ 市長

- ・オンデマンドバスの実証実験の検証は様々な側面から検証するため時間がかかってしまう。
- ・バス運行が進まない背景には、運転手不足があり、特にバスの運転には大型 2 種免許が必要で、運行の調整が難しいと聞く。また、自転車が道路を走行するようになるなど道路事情が変わったことによる事故リスクから、給料を積まれても運転手になりたくないという事情が運転手不足の一因となっているようである。バスの運行には市の予算だけでは解決できない問題が多く、公共交通のあり方全体を見直す必要があると認識している。

7 参加者【市立病院の建て替えについて】

- ・小浜に住んでおり、市立病院の建て替えに強い関心がある。多くの寄附もあり、アクセスの悪さやその他の条件があるものの、市民が安心して通える病院を作ってほしい。現状、どのように建て替えを進めるのか、市役所からの説明が不十分であると感じるため、市長の考えを聞きたい。

➡ 市長

- ・現時点では、第一駐車場に新しい病院を建て、その後既存の病院棟をリノベーションしていく方向で検討している。病床数は減少する見込みだが、機能はしっかりと継続する。
- ・医療だけでなく、介護や福祉との連携も強化し、患者がスムーズに自宅に帰れるような仕組みを作りたいと考えている。
- ・市立病院の建て替えに際して、小浜地域に住む皆様への負担軽減を考えつつ、交通アクセスの改善にも取り組みたい。

8 参加者【小児科医の充実、ほっこり湯について】

- ・小児科の医師が少なく、夜間対応が難しい現状に不安を感じている。娘が救急車で搬送されたとき、近隣市の医療センターに運ばれた。小児科医の確保についても取り組んでほしい。
- ・ほっこり湯に通っていて、結構良かった。他の企業でもなんとか続けていけないか。

➡ 市長

- ・現在、市立病院には小児科はあるが、毎日夜間対応することが難しい状況。阪神間全体で小児科の夜間対応を交代制で行っている。
- ・子どもの数が減少している中で、しっかりとした医療提供が重要だと認識しており、大阪大学から支援いただける見込み。今後、医療体制の充実を図り、安心できる小児医療を提供できるよう努力したい。
- ・ほっこり湯は、施設の修繕に多額の費用がかかり、土地も市の所有ではないため、難しいのが現状。

9 参加者【結婚の支援、働き方について】

- ・30年間お見合いボランティアをしており、社会が希薄化している中で、結婚の機会を提供し続けてきた。結婚に関する問題は人口問題と密接に関係しており、市が行政として結婚支援（バスツアー交流など）の窓口を作ってほしい。
- ・日曜日に働き続けることが日本の価値観として根強いが、欧米や北欧では労働時間の短縮が進んでおり、もっと休養を重視すべき。対話ひろばも同様に、「働きすぎ」の文化を変える必要性を強調し、生活と仕事のバランスを考えるべき。

➡ 市長

- ・結婚の支援活動が重要だと認識しているが、市役所がこのような活動を積極的に行うことに対する難しさも感じる。市民から同様の声が増えた際には検討したい。
- ・私自身、日曜日に働くことを望んでいるわけではなく、市民との対話を広げるために時間や曜日を工夫して開催している。また、市職員も、過剰な残業を減らす取組を進めており、休養も重視しているが、市民生活に影響を与える問題が発生した場合には、バランスを取って対応する必要があると考える。

10 参加者【バス、タクシーの運賃助成について】

- ・病院などへの急な移動にはタクシーが必要になるため、現行の 5,000 円ではなくても、3,000 円程度でもよいので、タクシーの補助を継続してほしい。家族が要介護状態であり、車を運転しない自分にとっては、この補助が生活に大きな支えとなっているため、廃止であっても段階的廃止を。
- ・宝塚市の予算は年間約 1,000 億円であり、その中でタクシーチケットの補助金が約 9,500 万円で非常に小さな割合、なぜ削減対象にされるのか疑問であり、市の予算にもっと無駄があるのではないかと、他の事業で削減できる部分があるのではないかと。

➡ 市長

- ・タクシー運賃助成が個人の生活に少なからず影響を与えていることを理解しているが、市の予算調整には限界がある。最終的な決定は市民の意見を聴きながら、慎重に検討したい。
- ・市の予算約 1,000 億円のうち、自由に使えるのは限られている。特別会計や義務的経費が多いため、予算を削減できる余地は少ない。それでもなお、他の市町と比較して無駄を削減し、実現可能な削減策を検討しているところである。今後も意見を聴きながら最適な方法を模索したい。

11 参加者【バス・タクシーの運賃助成、広報について】

- ・高齢者を取り巻く状況が変わり、収入や年金が増えない中で、タクシー運賃助成が重要な支援であると感じている。助成金額が実際には十分ではなく、これを減らすのではなく、維持または改善してほしい。現状の制度が高齢者にとって大きな影響を与えているので、なくさないように検討してほしい。
- ・市の施策が周知されていないと感じる。多くの市民が重要な情報を知らないことが多い。また、高齢者に対する情報提供方法の工夫が必要で、特に「ここを見てほしい」というポイントを明示することなど、重要な情報を確実に届ける工夫をしてほしい。

➡ 市長

- ・高齢者の支援と現役世代（子育て世代など）の支援とのバランスを取る必要もある。高齢者支援は重要な課題として受け止めているが、財政の厳しさから、優先順位をつける必要がある。

- ・国では、子ども家庭関連社会保障費に関する仕事をしていた。日本の特徴として、OECD(経済協力開発機構)加盟国の中で、GDP に対する子ども家庭関連社会保障費は最低であり、子どもにお金をかけない国であり、高齢者へは手厚い状況であることを知っておいていただきたい。
- ・人口が増えている時代とは異なり、全く違う時代となった。背丈のあった施策で優先順位を考えていく必要がある。高齢者も大事であると思うものの、決断も必要である。
- ・市役所の情報提供には限界があり、広報たからづかではかなり工夫をしているが、情報が伝わりにくい部分もあると思う。さらに工夫できるところは工夫していきたい。

12 参加者【観光・産業・文化の振興、農業の取組について】

- ・手塚治虫やアニメなどを活用した観光・産業・文化の振興について賛成。
- ・未来に向けて、子どもたちにとって魅力的な宝塚市を作るために水面下で動かれているとのことだが、具体的にどのような内容か。
- ・日本の農業自給率の低さや有事の際の問題がある。西谷地区など、農業資源をもっと活用できる場所が多いと感じている。そのため、農業に関連する取組について市長の考えの方向性を知りたい。

➡ 市長

- ・宝塚市の強みは都市には残る緑と農地。大阪や神戸方面へのアクセスも利点であり、それを活用した新しい産業の可能性を感じている。
- ・従来の農業をそのまま応援するだけでなく、都会型の新しい農業産業を作りたいと考えている。農業の価値を高め、民間の力も活用する方向で進めていきたい。具体的な詳細については、現在調整中である。

13 参加者【市民の健康について】

- ・市民が健康であれば、病院にかかることが減る。財政と市民の健康の関係について考え、市民個人として何ができるかを常に意識している。自分自身のこれまでのボランティアの経験から、タクシーやバス代の補助金などについても、市民ができる支援の形ができないか考えている。現役世代の力を生かすことや市民同士の顔が見える支援ができる方法はないか。

➡ 市長

- ・日本には「公共ライドシェア」と「日本版ライドシェア」があり、海外では便利で安価に利用されているが、日本では規制が厳しく導入には高いハードルがある。公共ライドシェアは、資格や保険の問題があるが、他の自治体の事例を参考にしながら実現可能な方法を検討し、国にお願いすることも考えたい。

14 参加者【不登校問題について】

- ・不登校の問題が深刻であり、増加している現状を憂慮している。不登校の影響がその後の社会適応に及び、引きこもりや挫折を招く可能性があり、早急に不登校問題に取り組み、改善策を検討する必要がある。現場の教師や保護者に対するアンケート調査を実施し、具体的な解決策を見つけるべきである。不登校問題を解決することで、10年後の財政にも良い影響を与えていると考えている。
- ・コロナ禍で学校が閉鎖された際、タブレットや教育機器が急速に導入され、多額の費用がかかった。これらの導入が、不登校問題や教育の質を助長したのではないかと懸念している。
- ・教育で重要なのは「ノウハウ」よりも「心を育てること」であり、心が豊かになれば教育機器を適切に扱えるようになると考えている。

➡ 市長

- ・不登校問題は重要な課題であり、簡単な対策では解決できないと認識している。対応は時間がかかるが、実験的な取組を通じて解決策を模索していきたい。
- ・発達特性や学びについていけない子どもたちへの対応も強化すべきであり、公教育のあり方を包括的に見直す必要があると考える。
- ・タブレットやスマホなどの教育機器については私も慎重に捉えており、他国（北欧やオーストラリアなど）の事例を注視している。教育機器の導入は、進むべき方向でもあるが、誤った使い方をすると教育にマイナスの影響を与える可能性もある。一方で、市内学校の授業等でタブレットを使わないとなると、他の地域との教育格差が生まれる可能性もあるため、バランスを取る必要があるとも認識しており、今後も教育委員会と連携しながら、教育機器の使い方について検証を続けたい。
- ・来年1月の市民との対話ひろばは公教育をテーマに取り上げる予定にしている。市民の皆様との対話を通じて、公教育についての議論を深めていきたい。